

# 立待小学校 120年までのあゆみ

年	本校の沿革の概要	教育一般事項	児童数	代	校長
明治五	石田に岩田小学校・吉江に明義小学校開校	「学制」発布 小学校教則制定 師範学校・下等小学校・上等小学校則制定 小学校令公布・尋常科を四年とする			
明治二十	岩田小学校・明義小学校が合併し吉江小学校を創建する 尋常・簡易の二科を設置し杉本村に指定 校舎は明義小学校舎を当てる 八月 高等科併置	教科用図書検定条例を制定 初めて電燈点火 吉江警察署を創建	一〇七	第一代	佐々木 武助
明治二十一	五月 授業料の徴収を認可 七月 生徒溜所及附属建物起工 九月 竣工（平屋建・間口五間、奥行三間） 十二月 大雪のため生徒溜場壊倒	国家「君が代」制定 市制・町村制公布 丹生郡役所を吉江町より西田中村へ移転する	一二九	第二代	竹内 仁作
明治二十二	一月 校舎改築、杉本村西光寺に高等科の仮教室を設置 四月 校舎竣工（和風建物二階造） 唱歌・裁縫の科目を加える 校舎狭隘のため三好権平宅を借り受ける	大日本帝国憲法発布 土地台帳規則公布 市町村制を実施 立待村名を称す 立待村役場を創建す			
明治二十三	九月 教室狭隘のため木下与五郎宅を借り受ける 十一月 天皇陛下のご真影を下賜	「教育に関する勅語」発布 小学校修身科教科検定標準を公示	一三四	第三代	山田 周蔵
明治二十四	四月 高等科に英語科を設置 六月 校舎一棟を改築（間口九間、奥行六間）	綿織物にはじめて「ボタン機」を使用	一八一	第四代	加藤 鏗
明治二十五		教科用図書検定規則を改正・善左エ門碑建立 祝日・大祭日の儀式用歌詞・楽譜を選定	一八二	第五代	長 丸蔵
明治二十六					
明治二十七	八月 丹生郡共進会に生徒成績品動植物標本を出品、一等賞を受賞	高等学校令公布 日清戦争始まる			

明治二十八	四月 校舎狭隘のため、西照寺を仮教室に当てる 四月 校舎改築のため生徒を西光寺に移す 七月 校舎竣工(二階建校舎一棟完成) 七月 吉江小学校を吉江尋常・高等小学校と改称する 校訓・生徒心得二七ヶ条作成	下関条約調印 立待村消防組を組織する		
明治二十九		市町村小学校教員年功加棒国库補助法公布		
明治三十		身体定期検査を業務化 鯖江に歩兵二十六連隊できる		
明治三十一		公立学校に学校医を置く、北陸本線全線開通		
明治三十二	校舎狭隘に付き加藤吉平宅北方半棟を借用 奉安所・宿直所・教員室・小便室等に当てる	西田中に準教育講習所開く 郡に郡視学を置く		
明治三十三		小学校令(第三次)改正義務教育四年に統一		
明治三十四		中学校令施行規則・高等女学校令施行規則		
明治三十五		「年令計算ニ関スル法律」公布		
明治三十六		小学校教科書の国定制度成立		
明治三十七		小学校国定教科書の使用開始 日露戦争起こる		
明治三十八	生徒長・生徒副長・級長・副級長制を置く	ポーツマス条約調印・戦後教育の方針訓令	三九五	第六代 長谷川直吉
明治三十九		義務教育延長案を可決		
明治四十	校舎増改築 七月一日落成武挙行	義務教育年限を六年に延長		
明治四十一				
明治四十二	校歌及び校訓を制定・尋常科六年となる 学造林・児童文庫を設置	修身教育の重視	六一七	第七代 飯塚謙
明治四十三	第二校舎陸上の裁縫室を廃し、通常教室とする 父兄懇談会・授業参観・学芸会を開く	「ハタ、タコ、コマ」国定教科書出る	五五九	第八代 水野正

明治四十四	教育勅語詔書の精神貫徹をすすめる	高等中学校令公布	四九七	第九代	中山捨吉
明治四十五	児童増のため高等科児童は巡回教授	明治天皇崩御(七月二十日) 大正と年号を改元する			
大正 二	児童増のため尋常科一年は午後の教授				
大正 三	校舎増築のため石田補習夜学会場に石田尋常科一、二年の仮分教場を置く	第一次世界大戦起こる、対独宣戦布告 浅水川の開削工事起工式			
大正 四	校舎竣工 二階建校舎増築(八七坪)計二四二坪となる 平屋建生徒溜所増築(四九坪)	天皇即位の礼 日華条約調印			
大正 五		岡田良平、文部大臣に就任			
大正 六	高等科複式から一学年一学級になる 夏季休暇中朝間体操を実施する	臨時教育会議設置	五九七	第十代	小辻千太郎
大正 七	体力増進・規律習慣のため毎月一回小運動会を実施	市町村義務教育国庫負担法公布	六一八	第十一代 第十二代	斎藤貫五郎 渡辺秀助
大正 八		臨時教育委員会設置・国際連盟規約に加盟			
大正 九	体操服を制定	第一回国勢調査、最初のメーター			
大正 十		メートル法採用	五七五	第十三代	宇野幸太郎
大正 十一		女子教員の産前産後の休養を認める			
大正 十二		関東大震災・「国民精神復興に関する詔書」発布			
大正 十三	幼稚園設置、日野川にて水泳練習開始	メートル法実施			
大正 十四		丹生実科高女創立、ラジオ放送開始			
大正 十五	校舎増加の認可指令を受く	大正天皇崩御(十二月二十五日) 年号を昭和と改元する			
昭和 二	運動場校地増加・校舎移転増改築決議	金融恐慌 兵役法公布			
昭和 三	校地埋立工事竣工 少年赤十字団に加盟	第一回普通選挙 学齢児童就学奨励規程を制定			

昭和 三	御大典記念県下小学校雄弁大会に出場 伊勢神宮御大典拝観旅行(高等科二年)	ラジオ体操放送開始 即位の礼			
昭和 四	校舎増築落成式挙行 記念村民体育大会開催 皇太神宮御遷式に遥拝式挙行	国宝保存法公布			
昭和 五	教育勅語発布四十周年記念式	経済恐慌はじまる			
昭和 六	天皇皇后両陛下の御真影奉還式挙行	満州事変起こる	五二二		
昭和 七	第三十六連隊の将士凱施、全児童歓迎する	上海事変起こる	第十四代		
昭和 八	植物標本の蒐集、天覧を仰ぐ 貝類の採集、昆虫の採集を実施 皇太子殿下御誕生遥拝式	国際連盟を脱退 天皇陛下福井地方へ行幸			田部井 薫
昭和 九	皇太子殿下御誕生祝賀式 東郷元帥国葬遥拝式 皇太子殿下御誕生一周年奉祝式	岡田啓介・内閣総理大臣となる			
昭和 十	大楠公六百年祭記念講演 橋本佐内先生百年祭記念講演 熱田神宮御遷座式遥拝式 第二皇子御誕生の遥拝式	学校放送開始 青年学校令公布			
昭和 十一	二宮尊徳銅像入魂式 校歌一部訂正文部省より認可 赤十字少年団閑院宮殿下御視閲式参列	義務教育八年制計画要綱決定 二二六事件発生			
昭和 十二	蓮沼部隊師還全児童水落にて歓迎 応召部隊出征全児童村端で歓送 神饌田植式、神饌田拔穂式 馬糧献納のため全児童草刈奉仕 出征軍人遺族家族の慰安音楽会	日華事変起こる			

昭和 十三	新田義貞公六百年祭講話 集団勤行結成式朝日村八坂神社参拝 鯖江市陸軍病院に傷夷軍人慰問 出征遺族の秋の収穫勤勞奉仕作業	衣料切符制始まる 国家総動員法公布	四八八	第十五代	桑原 又兵衛
昭和 十四	武漢三鎮陥落記念式典	「青少年ニ賜ハリタル勅語」下賜			
昭和 十五	児童陸軍病院へ慰問 紀元二千六百年奉祝式典 全児童旗行列参加	義務教育費国庫負担法公布 日独伊三国同盟調印	五一三	第十六代	田 中 深 治
昭和 十六	立待村国民学校と改称する	太平洋戦争起こる			
昭和 十七	銃器室増築	食料管理法公布			
昭和 十八	東伏見宮大妃殿下学校前郵便局にて奉迎	大日本育英創立、徴兵年齢一年引下げ	四七一	第十七代	今 村 千 栄 雄
昭和 十九					
昭和 二十	集団学童疎開受入式（西光寺） 集団学童疎開帰阪 天皇陛下御真影を丹生地方事務所に奉還	福井市空襲、ポツダム宣言受諾 終戦の詔書放送	五二一	第十八代	横 山 益 英
昭和 二十一	奉安殿撤去完了 憲法発布記念式	日本国憲法公布 米国教育使節団来日		第十九代	前 田 豊
昭和 二十二	学制改革により立待村立立待小学校と改称 立待村立立待中学校を併設 立待校父母と先生の会創設	新制の小学校・中学校発足			
昭和 二十三	福井大地震発生、校舎大破 併設立待中学校は神明町、立待村・吉川村の組合立中学校に併合する組合立中央中学校へ移る	教育委員会公布 福井地方にマグニチュード七・三の地震発生			
昭和 二十四	福井県教育委員会より保健教育研究指定を受ける 第一回保健教育研究発表会	検定教科書使用開始	五七〇	第二〇代	鈴 木 信 治

昭和二十五	第二回保健教育研究発表会	朝鮮戦争起こる				
昭和二十六	学校給食優良校として県教委より表彰 サンフランシスコ講和条約調印記念に国旗掲揚場搭 建立 第一回全国学校保健大会で文部大臣賞受く	児童憲章制定 民間ラジオ放送開始 学習指導要領改訂 日米安全保障条約調印				
昭和二十七	学校図書館（立待子ども文庫）設置 二宮尊徳先生（銅像）再建 県教委より学校給食優良施設校として表彰	平和条約発効	五七二	第二十代	林 繁樹	
昭和二十八	丹生軍第一部会の体育大会開催（本校） 外運動場二百坪拡張	テレビ本放送開始 理科教育振興法公布・学校教育法施行令公布 へき地教育振興法公布・学校給食法公布				
昭和二十九	学校改築第一期工事北校舎完成	鯖江市制発足				
昭和三十	学校改築第二期工事南校舎完成 鯖江市立待小学校と改称 外運動場拡張六百坪	第一回原水爆禁止世界大会				
昭和三十一	学校改築第三期工事体育館完成 創立八十五周年記念式典挙行	「地方教育行政の組織・運営に関する法律」公布				
昭和三十二		東海村に原子炉完成				
昭和三十三		関門トンネル（海底国道）完成、東京タワー完成 学校保健法公布	七〇四	第二十一代	鈴木 信治	
昭和三十四	市内初のプール完成、プール竣工式 環境緑化コンクールに知事賞を受賞	NHK教育テレビ本放送開始	六八四	第二十二代	赤松 壽	
昭和三十五		日米新安全保障条約				
昭和三十六	市道徳教育研究発表会	スポーツ振興法公布				

昭和三十七	卒業記念時計台竣工	義務教育教科図書無償に関する法律公布					
昭和三十八	豪雪にて倉庫倒壊 本年度より特殊学級設置（一学級）	三八豪雪（一九六センチメートル）	四九〇	第十四代	林	馨	
昭和三十九	県教委より特別教育研究指定を受ける	東京オリンピックピック大会 東海道新幹線開通					
昭和四十	特別教育活動研究発表会 体育施設設備の充実（ジャンブルジム他） 北校舎南校舎教室照明完了	福井空港開港 朝永振一郎ノーベル物理学賞受賞					
昭和四十一	プール側壁コンクリート舗装	国民の祝日「建国記念の日」「敬老の日」 「体育の日」追加	四九一	第十五代	小谷	金蔵	
昭和四十二	教育施設備品の充実（ピアノ・放送施設等）	公害対策基本法公布					
昭和四十三	交通安全校宣言、交通安全旗掲揚塔の建設 前庭花壇造成工事完了（PTA）	小笠原返還協定調印 第三十三回国民体育大会（福井国体）	五〇五	第十六代	酒井	勇助	
昭和四十四	屋外蛍光灯二本防犯用に設置 文部省より道徳教育研究指定を受ける 吹奏楽器・体育器具多数寄贈 交通安全教育優秀として知事より表彰受く	北陸本線複線電化完成 東名高速道路全通	五二五				
昭和四十五	文部省、県指定道徳教育研究発表会 健康優良校として特選表彰を受く	国際万国博覧会（大阪）					
昭和四十六	プール改築工事完成（浄化装置・水洗便所・更衣室） 道徳教育研究自主発表。読売教育賞受賞 鯖江市小中学校連合音楽会本校にて開催	沖縄返還協定調印	五三五				
昭和四十七	創立百周年記念式典挙行 きこくの泉・記念植樹、同窓会誌発行	学制百周年記念式典（文部省） 第十一回冬季オリンピック（札幌）					
昭和四十八	屋根ペンキぬり作業	石油危機起こる	五六三	第十七代	大門	嘉雄	

昭和四十九	第十三回特殊教育研究全国大会打合わせ会	第十三回特殊教育研究会(福井大会)			
昭和五十	学級対抗球技大会				
昭和五十一	県学校保健会より表彰(歯のコンクール県一位)				
昭和五十二	県指定学校体育研究委嘱校指定 第一回学校体育研究発表会	ロッキード事件初公判	七〇七	第二八代	上田 金弥(彌)
昭和五十三	第二回学校体育研究発表会	新東京国際空港開港 日中平和条約調印			
昭和五十四	保健体育優良校として表彰 校舎改築第一期工事完了(南館)				
昭和五十五		文部省「児童・生徒の非行防止について」通知	八五四	第二九代	新道 等
昭和五十六	校舎改築第二期工事完了(本館・北館) 校旗・体育大会優勝旗新調 ことばの教室開設 中部日本音楽コンクール最優秀賞	五六豪雪(一三四センチメートル) 置県百年			
昭和五十七	校舎改築第二期工事完了(体育館) 全館落成記念式典挙行	地域改善対策特別措置法公布 日本学校健康令法公布	八四四	第三十代	藤井 文英
昭和五十八	校庭に国旗掲揚塔を建設 全日本吹奏楽コンクール北陸大会に金賞 CBC子ども音楽会北陸大会に最優秀賞 全日本少年サッカー県大会に準優勝	臨時行政改革推進審議会設置法公布			
昭和五十九	学校保健統計調査実施校指定・低学年図書室開設 全日本吹奏楽コンクール県大会に金賞・版画コンクール最優秀賞・県農協作文コンクール最優秀校	臨時教育審議会設置			

昭和六十	屋外運動場暗渠排水改良工事 全日本吹奏楽コンクール北陸大会優秀賞 県小学生版画・県簡易保険作文・県農協作文コンクールに優秀学校賞				第三十二代 藤井寛之
昭和六十一	県代表健康優良校として中央表彰 ラジオ体操実践指導普及発展の表彰 全日本吹奏楽コンクール北陸大会に金賞				
昭和六十二					
昭和六十三	県特殊教育研究発表会				第六六〇 第三十二代 若松金十郎
平成元	第十三回全日本少年サッカー大会出場		昭和天皇崩御、元号を平成と改元(一月七日) 小学校新学習指導要領告示		
平成二	ふるさとクラブの設置(石田編織物の再現)			六三三	
平成三	特色ある学校体育スポーツ推進学校指定 社会福祉協力校に指定 体育館前芝生整備完成		世界体操選手権大会鯖江大会開催決定	第三十三代	尾武哲了
平成四	創立百二十周年記念式典挙行 北庭・中庭・南庭の整備工事完成 記念碑・記念樹・タイムカプセル設置 創立百二十周年記念誌発刊	学校週五日制の実施			